

■津堂遺跡と津堂城山古墳■

津堂（つどう）遺跡は、津堂城山（つどうしろやま）古墳の北西に位置する遺跡です。

近年、東西2箇所の発掘調査で、それぞれ特筆すべき成果が得られました。

まず西側の調査地では、棟持柱（むなもちばしら）を有する大型建物2棟を検出しました。

また、建物の周辺では、祭祀的な様相をもつ土器類の集中廃棄遺構などを検出しました。

コンパス文を有する初期須恵器や韓式系土器など、希少な土器が出土していることも、見逃せません。

時期的な一致から、津堂城山古墳とかかわる集落であった可能性があるでしょう。

東側の調査地では、桁行（けたゆき）3間、梁行（はりゆき）2間のものを中心とする、総柱（そうばしら）建物を検出しました。

建物の構造からみて、倉庫として使用された可能性が高いと考えられます。

2つの調査地の時期はほぼ同じですが、倉庫周辺の出土資料には須恵器（すえき）が含まれないことから、東側は存続時期が短かった可能性があります。

また、建物の性格の違いに加え、東側では土器類に希少品を含まないなど、出土資料にも様相の差が認められます。

西側と東側の調査地の関係、そして津堂遺跡と津堂城山古墳の関係が注目されます。